

平成30年度第1回企画編集部会議事録

日 時：平成30年7月12日（木）10:00～11:45

場 所：赤れんが庁舎1階 文書館打合せ室

参加者：桑原編集長、坂下副編集長、平野委員、谷本委員、山崎委員、奥田委員、横井委員、小内委員
道史編さん室（蘆原、中谷、伊藤、山本）

1 開 会

2 部会長（編集長）挨拶

3 報 告

- (1) 第1回北海道史編さん委員会開催結果
- (2) 小部会の設置及び小部会長・部会長職務代理者の指名について
- (3) 各部会（小部会）の進捗状況

4 議 事

- (1) 資料調査の進め方について
- (2) 新聞記事データの採取方針について
- (3) 資料編の構成について

5 閉 会

1 開 会

○靄原室長 定刻になりましたので平成30年度の第1回企画編集部会を始めさせていただきます。はじめに、編さん室の職員の紹介からさせていただきます。

(以下、編さん室職員あいさつ)

なおこの会議ですけれども、みなさんお揃いですので、会議は成立しましたということで、ご案内いたします。

まず、企画編集部会の部会長、編集長である桑原先生に一言ごあいさつをお願いします。

2 部会長（編集長）挨拶

○桑原編集長 先月開かれまして編さん委員会におきまして、編集長を命じられました。編さん物が10年後に無事に完成していることを期待しつつ、皆様のお力をお借りして、今年から事業を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。なお、副編集長には坂下先生にお願いしました。併せてご報告させていただきます。

3 報 告

(1) 第1回北海道史編さん委員会開催結果

○靄原室長 次第に沿って議事をすすめてさせていただきます。報告案件が3つ、議事案件が4つございます。

まず報告の方からですけれども、資料1で6月28日に開かれまして第1回北海道史編さん委員会のご報告をさせていただきます。後ろのほうに議事概要と議事録もついておりますので、後ほど併せてご覧いただきたいと思います。委員会の委員定数は15人で、当日は12人の出席でした。その中で小磯先生が互選で委員長に就任いただきました。3頁目の資料は、北海道知事から北海道史編さん委員会委員長あてに北海道史の編さんについて諮問を行った文書の写しです。道史の編さんに関する方策を定め、推進することを諮問しています。4頁目は「北海道史編さん委員会運営要綱」です。今まで「北海道史編さん委員会条例」と「施行規則」というものをつくっておりますが、それに加えて、運営要綱を委員会で決定しました。これの中身はといいますと、第2条で部会の設置、委員会に5つの部会が置かれることを定めています。また第3条で小部会を置くことも定めています。第5条では「部会に属する専門委員は調査研究委員と称する」ということで、条例上は専門委員と臨時委員という名前になっていますけれども、実際に称する場合には、専門委員は要綱上も専門委員と、それから調査研究委員と2つに分かれます。臨時委員は、実際には調査研究協力委員という名前になることが第7条で示されています。第8条では、「企画編集部会の部会長は編集長と称する」となっています。これにより桑原先生が編集長、そして第2項で「編集長が副編集長を指名する」とことになっておきまして、これを坂下先生にお願いしたところです。続いて6頁目ですけれども、「北海道史編さん委員会傍聴要領」も定められました。

7頁目は組織体制の概要図です。北海道史編さん委員会という審議組織が、各部会に対して調査・研究を委任する、それに対して結果を報告するのが各部会の役割です。

知事からは道史編さん委員会全体に対して、道史をつくってくださいという諮問を行い、それに対して原稿という形で、道史編さん委員会が答申を行います。知事その可否を判断して、印刷・刊行を行うという図式になっています。

真ん中の図は、原稿という答申の作成の流れです。北海道史編さん委員会の中で、まず編目構成の検討・決定を各部会で行いまして、それを企画編集部会にあげて、その構成について委員会で決定する。決定されましたら、執筆依頼を行います。執筆依頼というのは、形式上はですが、道史編さん委員会から各大学教員や研究者という執筆者に対して依頼を行い、そして原稿が出されてくるという形にしております。委員会の中で原稿を執筆する形にはなっていないと、委員会というのは調査・研究するところという整理になっているためです。日額報酬というのが委員・専門委員の報酬になるのですが、これと執筆1枚あたりいくらというのがなじまないということもありまして、人格的には委員イコール執筆者なのではございますが、図式としてはこういう整理になります。そして原稿の点検・確認を各部会、それから企画編集部会で行いまして、原稿が企画編集部会から委員会にあげられて決定し、知事に対して答申という形で出される、という流れになっています。

その下の各委員の職務のところですが、条例上の委員の名前と、要綱上の委員の名前は、先ほども言いましたようにそれぞれ分かれています。要綱上の専門委員というのは、全部会に及ぶ企画、編集及び調整、それから所属部会の運営・推進も行い、それぞれの各個人としての分野の調査研究ということになります。調査研究委員については、所属部会における企画及び編集、それから担当分野における調査研究になります。調査研究協力委員は、特定の事項に関する調査及び情報提供です。今回、6月中に任命を終えました委員については、全員専門委員あるいは調査研究委員で、調査研究協力委員は今のところはいません。以前、準備会の中で、調査研究協力員が執筆することがあるかないのかという検討をしたときに、融通性を持たせたほうがいいのではないかとのご意見がありましたけれども、今回執筆に関しては、人格的には同じであっても、外の執筆者に対して依頼するということになりますので、調査研究協力委員が執筆する場合もあるし、執筆しない場合もあるということで整理できるのではないかと思います。

次の8頁目、部会の委員と部会長の指名ですが、編さん委員会の委員長が指名することになっておりまして、任命行為は知事なわけですが、どこの部会に属して、誰が部会長かという委員長からの指名があり、今のところ全体で合計38人という構成になっています。

次の9頁目「北海道史編さん委員会の道史編さん計画の概要」ですが、これから1年間かけて、企画編集部会を中心に道史編さん計画を固めていただきたいと考えています。これはどういうものかといいますと、目的のところにありますとおり、道史の大枠としては「道史編さん大綱」があるわけですが、これを細かく具体的に策定していただきたいということです。委員会には、事務局のたたき台ということで示しまして、これに対して、今回、道史編さん委員会の委員の方々から意見をいただいておりますので、その意見を含めて、今後1年間かけてご検討いただきたいと思っております。まず決めないといけないこととして、誌名ですね、『北海道現代史』がいいのか、『新修北海道史』あるいは他の名前がいいのかとか、概説の名前についても決めていただ

く。それから巻数、形態、発行部数のところももう少し詳しく。そのほか留意事項であるとか、収集調査の中身とか、デジタル技術を活用した普及について検討する、というようなことがざっと出ております。これらを、11頁の枠の中にとおり、各部会の意見を聴取しながら、企画編集部会において検討を進め、来年度、第2回北海道史編さん委員会での審議を経て、決定する、ということになります。

次に13頁の今後の活動ですが、その年度の活動というのは委員会の中で承認して各部会で動くということになっておりますので、おおよその予定ですけれども、示しています。ほかに参考資料と、議事概要と議事録をつけております。この編さん委員会の開催結果につきまして、何かご質問はありますか。

- 小内委員 8頁に名簿がありますが、7頁を見ると委員会が執筆者に依頼するとなっておりますが、この執筆者は承認されたということなのですか。委員会が執筆者に依頼するわけですよね。ということはこれから進められる、そのところはまだ承認されてはいないということでしょうか。
- 靄原室長 執筆依頼というのはまだですが、實際上、委員の人たちが執筆者になるということで問題ないです。その通りにはなりません。委員以外の方が執筆者となることは今のところは想定していません。
- 小内委員 調査研究委員として、もう文書はご本人に行っているのですか。
- 靄原室長 任命書というのが行っています。
- 小内委員 ではこれは確定と考えていいのですか。
- 靄原室長 はい。調査研究委員を専門委員という条例上の名前で言っている任命書が行っています。

(2) 小部会の設置及び小部会長、部会長職務代理者の指名について

- 靄原室長 資料2をご覧ください。運営要綱の第3条で、小部会の設置と小部会長の指名は部会長が行うこととなっております。社会・教育・文化部会の部会長である横井先生からの指名によって小部会が設けられ、小部会長が指名されたということ、それぞれの小部会の構成員が、これも部会長の指名によって決まったという、そういう一覧です。裏面には、各部会長の職務代理者の指名というのがあります。これは施行規則によりまして、各部会長に事故があった時のために、職務代理者を事前に指名するとなっております。それぞれの部会の部会長にお聞きして、職務代理者を指名し決めたところがございます。これについてご質問ありますでしょうか。
- (発言なし)

(3) 各部会（小部会）の進捗状況

- 靄原室長 次に各部会、小部会の進捗状況ですけれども、昨年度のワーキングの開催結果という資料をつけております。社会・文化ワーキングと、教育ワーキングにつきましては、ワーキングの開催の後の調整の、各分野の分け方とかそれぞれの担当の先生について、ある程度まとまったものができあがっておりますので、これも併せて資料としてつけております。できればこのそれぞれの進み具合、ワーキングの内容について、各部会長の方からご説明をいただきたいと思っております。
- 桑原編集長 概説ワーキングは3月7日に、参加者3名で、私と平野先生と谷本先生

で簡単に打ち合わせしたわけですがけれども、まだ部会の追加メンバーが必要ではないのかという話になりまして、今日この会議が終わった後に引き続き概説部会を開きまして、何名か追加したいメンバーを補充したいと思います。その上で、概説のあるべき姿みたいなものを検討してみたいと思っております。

- 坂下委員 産業・経済部会では、ポイントとしては基本的に産業別に分けて担当を決めるということで、まだ完全には決まてはいないのですが、その後奥田先生にご苦勞いただいて分担がだいたい決まったかなという段階になっています。責任ということで言えばそれぞれ分担してやっていただくわけですが、お互いに今どこまで進んでいるのかというチェックをしながら、少し勉強をして、通史的なところでお互いの関係を整理していかなければいけないこともあるので、勉強会みたいな会も設けて、順次何人かずつ発表するような形でイメージしております。資料編についてどうするという具体的なことは、次回に考えるということになっていたと思います。
- 小内委員 社会・文化ワーキングでは、3月23日に、その当時決まっていた執筆者4人が集まりまして、話し合いました。その時、分担というか、どういう項目を立てるかということで、原案を出して議論しまして、それを受けて社会・文化分野構成案を作りました。今のところこのような形ですが、まだ決まていないところもあります。3の衣食住の変化というところで、衣は北海道的なものというのは書くのは難しいのではないかとということで、また適任者もなかなかいなかったもので、今のところこれは削除してもいいのではないかとという方向にあります。まだ4人以外は打診していませんでしたので、その後打診して、ここに書いてある名前の方には了解を得ているところではあります。以上です。
- 横井委員 教育ワーキングの方も、社会・文化と同じような状況です。この会を開いた時点では、表にあります一番上の、占領下の教育改革ご専門の大矢先生と、その下の社会教育の辻智子先生の二人しかまだ依頼ができていなくて、お2人に参加していただいて、このあとどういう分野・項目を対象にしなければいけないかと、どういう人がいいかという話をしました。表はその後いろいろ人を探しまして、決まったものです。また辻智子先生の社会教育のところは、まだ若干人を加える可能性があるということ、そんな確認と人の選定の話をしたところではあります。
- 靄原室長 これに関して、ご質問とか補足とかありますでしょうか。
(発言なし)

4 議 事

(1) 資料調査の進め方について

- 靄原室長 調査に関して、2つ取扱要綱を定めようとしております。これは委員会に諮って決定するというものではなく、道の規定として設けるものですが、実際やりづらいたということが後でわかって困りますので、趣旨や内容をあらかじめ見ていただいて、先生方にご意見があれば、それを反映させたいと思っております。

資料4「道史編さん資料調査に関する取扱要綱案の概要」は、調査を円滑に実施するための規定です。内容としては(1)委員等は事前に、「個人情報取扱に係る誓約書」を提出する、となっております。調査の前に書いていただきまして、所蔵者に対して安心感を持ってもらうということで、これは山口県のものをご参考にしてつくっ

たものです。調査を進めるのに有効だということを山口県で聞いてきましたので、用意してはどうかと思います。また、委員等は事前に調査実施計画書別紙②を提出する。これは支出について、事前の処理というのが道では必要なものですから、簡便な形でできないかということで検討しているところです。事前に、何月何日にどこに調査に行きますという計画書を提出してもらおう。それからその裏面ですけれども、調査実施報告書、これは実際に行きましたよということで、確認のハンコを押し、それを1月分まとめて、何日従事したということで支出書類にしたいと思っております。こういう報告が1月単位でまとめられまして、翌月10日までに口座の方に支払いがなされるという流れになります。調査に関する取扱要綱は以上です。

資料5「道公文書の閲覧等取扱要綱案の概要」は、道の現用の公文書の調査について定めるものです。原課でまだ実際に持っているものですので、通常であれば情報公開請求でしか見られない。これを道史編さんに関してはゆるめてもらおうということで、今協議しているところです。さきほどのような誓約書をまず提出してもらって、それをつけて依頼すれば、現用公文書であっても委員が見られる、複写もできると。ただその複写の中には、個人情報のように普通であれば隠すようなものがたくさん含まれていると思われまので、それは複写を取ってきた後で道史編さん室の方でマスキング処理をするということにしたいと思っております。先生方は、複写を取った後で、基本的には道史編さん室に来ていただいて見る。あるいは持ち帰るということもあるかとは思いますが、その持ち帰る時には個人情報が入っている部分については、あらかじめマスキングしてありますので、それを複写して持って行ってもらうということで、外に出して個人情報が漏れないようにするということを考えています。

調査に関する以上2つの要綱について何かご質問やご意見がありましたらお願いしたいと思います。

- 横井先生 やりながらでないといけないでしょうけど、歴史資料を見る時に、全部自分の手元に置くという先生もおられるかもしれないけど、量が結構あるので、こういうところにある程度保管されていて、それを見に来られると。そういうことになる、そもそも資料を保存して作業する場がここに用意していただけるのかということ。それから、そういうふうになると私なんかは職場も近いし、家もそう遠くないので、しょっちゅうここへ来ると、そのたびに報酬が発生してしまうということになる。遠方の方はまったくほとんど来られないということで、少し差が出ちゃうのも気になったりもします。まず、ここでそういう作業場的なものが用意されるというお考えはありますか。
- 靄原室長 机を置いて見ていただくということで考えています。
- 横井委員 読みかけのものを今日はここまでと置いてとか、そういうことがあり得ると思いますけど。そういうようなことはしない方が良いのかな。
- 靄原室長 全部この中で置けるようにしたいと思います。調査してきたものもそうですが、基本的な資料で必要だということになったものも置いておきたいと思っております。
- 横井委員 今度はそれを見に来ないといけないから、そうすると時期にもよりますが、集中的にやるときには、しょっちゅう来てしまうということになりますよね。
- 靄原室長 はい。それでも1回ずつ報酬を払う。
- 横井委員 いいということですね。一方、を送ってもらってやる人も、遠方に住

- まわられている方もおられますから、ここに来るのも一日がかりみたいな人もいますから、そういう人はあまり来られない。
- 坂下委員 古いものは置いておかなくていいわけですよね。個人情報にひっかかるようなもの以外は。
 - 齋原室長 コピーを取って置いておくということにするとということです。
 - 坂下委員 最初から PDF にして、パソコンの中に入れて管理して、個人情報にひっかかるものだけは仕分けして PDF にすれば、そのままメールで流してもらえばいいということになるのではないですか。
 - 横井委員 そういう文書であればいいですけど、多分新聞なんかはしょっちゅうずっと見に来ないといけないとかとなると・・・。
 - 坂下委員 やってみてから考えた方がいいのかな。
 - 横井委員 私もそんなに来ないかもしれないのだけど、以前の札幌市史の感覚では、専門の人が、そこに席がない人ももちろんおられたのですが、1人1つずつ机が置かれてあって、そこに自分がコピーを頼んだものが綴じて置いてあって、そこに来て作業するというふうにしていましたけど、そんな場がないと考えておいた方がいいのか。なければここに来ないので。
 - 坂下委員 分野によってかなりいろいろでしょうからね。だから少し動いてみてやりやすいように工夫を。
 - 横井委員 無用な報酬が発生するのもいけないとも思う。
 - 小内委員 逆に来にくくなっちゃう。
 - 桑原編集長 ここ（赤れんが庁舎）にいられるのは、あと1年くらいですか。その先はどこに行くかまだわからない。
 - 齋原室長 まだわかりません。でもこの周辺部で考えています。
 - 桑原編集長 そのときにそういうスペース確保するのは難しいのですが。
 - 齋原室長 いえ要求はしていきます。この場でも仕切ってなんとかできないかと今考えてはいるのですけれども、机を3つも4つも置いておくというのは今のスペースでは無理ですね。だから自分の机があってそこに自分の資料があってというスペースは無理だと思います。
 - 横井委員 いくらか資料を置いておいてもらうということはできますよね。それは棚に入れておいてもらうとか。
 - 坂下委員 ところで、出張みたいな時は、大学に対して依頼状みたいなものは送ってくれることになりますか。1回1回となると結構面倒ですけども。それは個別対応ということでもよろしいですかね。個別にお願いするとか、要らないですとか。
 - 奥田委員 事故が起きた時の責任の所在の問題ですね。
 - 谷本委員 出張の場合は出さないといけないと思うのですよね。例えば旭川に調査に行くとか。問題は、ここでやる時。市内ですからね。
 - 奥田委員 これは大学ごとにやり方が違う。学部によって扱い違うってこともあり得る。規定は同じでも運用が違うみたいな。
 - 齋原室長 後ほど相談させていただきます。
 - 齋原室長 他に何か。
 - 奥田委員 予算に図書費はあるのですか。

○轟原室長 はい、買えます。

○奥田委員 買えますか。購入資料ということも可能だということですね。

○轟原室長 はいそうです。

ではこのような規定をつくるということでだいたいご承認いただいたということで。大学への依頼の仕方についてはまた別途ご相談させていただきます。

(2) 新聞記事データの採取方針について

○轟原室長 新聞記事データの採取方針についてですけれども、道新のDVDから焼いたものを6枚ほどつけています。どれくらいの記事を採用かということについて編さん室内で検討した結果がありますので、これを先生方に見ていただいて、これでよしとなれば、このまま作業を進めていきたいと思えます。

まず、全国規模ニュースみたいなものは採らない、北海道のものに限るとというのが基本です。ただ、資料の1枚目にあるように、全国規模ニュースでも北海道と関係が深ければ採用。この1枚目には「樺太、千島の帰属」「米軍との共同訓練」という関係の深い全国規模ニュースがあり、こういったものは2つとも採用。

○小内委員 番号は何ですか。①、②、③、④という。

○轟原室長 これはデータで取る時に、1件ごとのデータの見出しを4つまで採ろうとしていてその順番です。大きい見出しの「樺太、千島の帰属を考慮」というのをエクセルの1つ目のマスに採り、ほかの中小の見出し「ヤルタ協定廃棄」「ソ連占領を不法化」を4つまで採用。また左側の社説、社説はだいたい全国規模の政治経済であることが多いのですが、道内関係を扱っていればこれも積極的に採用。

次の頁の「太陽の家を訪ねて／転落しかけた子供達」という記事は、「世相を表す調査報道は積極的に採用」と書いてあります。それからその下の「春のさき乗り／茅部ニシンとれ出す」。季節ものとか風物詩、雪祭りが近い、風邪がはやりだしているとか、そういったものはあまり採らないようにしようと思っておりますけれども、ニシンの捕れ方というのは、この後盛衰が激しくなるのでニシンは採ろうかなと、こういう差をつけようということ。その左側の「今年も豆成金の夢」。これは地域の産業の特徴を表すものでありますのでこういったものは積極的に採用していきたいと思えます。それから扱いは小さいのですが、下に2つほど採ろうとしている記事があります。右側が「駐留部隊の拡充」左側が「檜山の入植戸数申請」です。駐留米軍とか戦後入植の記事は小さくても採ろうと思えます。

県史によっては網羅的に全部採用というところもあるのですが、北海道の記事を網羅的に採用ということも大変なことになりますので、道史に使えるものをこちらの主観的ですが選んで採用というふうを考えています。

次の3枚目ですが、酒・タバコ遊びいろいろ／本社全国世論調査で酒・タバコ何%、下の方に見出しで「映画は月平均2回」というのがあって、こういった趣味趣向も、これは全国調査で北海道の調査ではないのですが、統計にはなりにくいようなものであれば採った方がいいかと思っております。それから、左側の方これは「新声」という投書欄で、たわいない投書も多いのですが、中には見るべき投書というものも結構あります。そこで、投書のうち重要な課題を扱ったものは切り捨てずに採用しようという方針です。4枚目右側の「猛威を振るう感冒」、これは季節

ものなので、記事がいくら大きくても採らない。それからその左側、「海運界漸く好況に／本州定期船／近く運賃値上げ」。これも産業状況として注意して採っていきたい。ただ、ここの①、②、③の見出しだけだとどこの情報なのかということが分からない、となった場合には④として「小樽発」というのも採っていかうとしています。右下の「最高十月は一日四十五時間」、これは農家の労働量調べですけれども、これもどこの地域か分からないので「岩見沢発」というのをに入れていく。それから同じ産業関係ですけれども、左下の「殖えてきた大型船／去年の函館入港船」、これは函館って見出しの中に入っているもので、地域名は採らない。

次の頁、「働く女性」という連載記事が右上にありますけれども、当時の価値観を示すものとして採っていった方がいいのかなと思います。その左側の座談会。特集記事というのは深く掘り下げているものもありますので、出来るだけ採っていかうと思います。この場合は「都会の青年に望む／農村青年の批判」ということで、農村青年が都会の青年を批判している座談会ですね。次の頁が最後ですけれども、真ん中に大きい吹き出しで「通常の事件・事故を除く北海道関係の記事で、時代を表す重要なもの」を採りますと。この紙面ではこの4つ、というレベル感です。電力事情の関係とか、疎開住宅、北教組大会、それから引揚げの数という記事は採りますけれども、「情夫の家に放火」「電線ドロ主犯を起訴」といったような通常の事件・事故は採らない。こういった差の付け方で作業をしていくという案ですけれども、いかがでしょうか。

- 坂下委員 この時は6面ですか？
- 轟原室長 これはパターンとして説明しやすいものを昭和28年2月の中から選んでいます。この時期は2面しかなかったです。
- 小内委員 エクセルで4つ見出しがあって、見出しを我々が見て、これは自分で見たいと思ったら新聞をめくって見るっていうことですね。
- 轟原室長 ええ、そうです。
- 小内委員 クリックしたらそこに記事が出てくる訳ではないんですよね。
- 轟原室長 そこまではちょっと。道新の記事データベースのない時期なので、自分で作るしかない。ただ言葉を入れてくれれば引かかるような形で見出しを採っていくというもの。
- 小内委員 データベース化される前までをやる。
- 轟原室長 データベースというか、エクセルでもって作ろうかなと。
- 小内委員 全部。2000年までですか。
- 轟原室長 1988年以降は検索出来ますので、そのあたりまでです。
- 平野委員 データを作っていた後の我々のアクセスの仕方なんですけれども、CDか何かに焼いたものを僕らがいただいて、それで家で検索出来るかたちですか。
- 轟原室長 そういうふうにしたいと思います。
- 平野委員 それはどの時期でそういう形になって、貰えることになるんでしょうかね。CDに焼く時期ですね。段階を追って部分的に出来たものから貰うってかたちですかね。
- 轟原室長 まず今、縮刷版が出来る昭和42年までの入力を1年かけてやろうとしています。あと、縮刷版が出来てからの入力をまた1年かけてやろうかと。2年でなんとか出来ればと思っています。

- 平野委員　すごく丁寧に抜いてくれるようですけれども、やはり作業としてもものすごく大変だなと思ってしまいますのでけれども、旭川市史でやったときにやはり見出しを抜いてくれて、それで僕らも検索出来ましたが、その時は多くは大きな見出しを入れていただいて、だいたいそこだけ書いてある内容を若干文章にして書いてくれて、ですから1行ですよ。その中に欲しい情報がだまかに入っているという形で抜いてくれて。ですから、語句が全部ヒットして全部一覧で検索出来るので、そのくらいでいいのかなという印象があったのですが。
- 靄原室長　要約するというのもなかなか大変なことなので、見出しで採って、採りにくいものは先ほどのように地名を入れるようにした方が早いかと考えています。
- 坂下委員　見出しの指定をすると記事が送られてくる。
- 靄原室長　はい。
- 坂下委員　切り抜きはしないの。
- 靄原室長　切り抜きはしないですけど、その部分みたいな形ですね。
- 坂下委員　ページ毎で送ってくるのですよね、基本的には。
- 平野委員　今プリントしていただいたのは字がすごく見やすいですけど、実際私が旭川図書館で見る道新のマイクロはすごく写りが悪くて見えないんですけど。
- 靄原室長　いや、ひどいですよね。（昭和）22、3年とかは本当に真っ黒で。
- 平野委員　真っ黒ですよ。
- 坂下委員　やっぱり社会の関係の方ですよ、こういうものを使うのは。産業を新聞で書けるかっていうと。
- 小内委員　でもそこで資料を紹介したりするのは使えますよね。そのままではなかなか使えないです。
- 坂下委員　資料編なんかでそう新聞みたいな感じでぱっと出してわかるのは、すごくいいと思いますよね。読む方からいうと。産業だと、数字とかを資料に出したって仕方ないわけですよ。その部分は新聞なんかのこういう「今年も豆成金だ」みたいな記事は結構いいと思うんですけど。
- 靄原室長　あまり新聞記事が資料編にいっぱいありすぎるのもよくないと言われてるようです。
- 坂下委員　僕のイメージでは資料編をどう作るかまだちゃんとなっていないので、統計作るのだったらそのまま通史書いちゃった方が早くないかって感じなので、なにか時代が分かるようなものとなると、こういうのも使えるかなと。
- 靄原室長　これは資料編そのものに使うというよりも、その土台になるものというイメージで、ですから作業を急いでやろうかと思っています。
- 坂下委員　時代感覚がどこまであるかということですよ。これは僕が生まれる1年前の新聞だけど、読んだ方がいいなと思いますけど、人によりますよね。自分で感性持っている時代とない時代があるので、そういう時に比較的若い人はこういうのを実際に読むと、こうだったというのが分かる。学生とかに読ませたいな。
- 靄原室長　これはいろいろな分野の記事が並んでいるので、社会文化と教育とか政治行政とか産業経済とか、分類して並べるとまたよりくっきり流れが分かると思います。
- 坂下委員　うちにも殖民地の切り抜き帳というのがあったんです。それは二次資料としてすごくいい資料になった。こういうのもちゃんと取っておくと切り抜きで見ると

相みたいな本を誰か書けるのではないかな。

○靄原室長 このあたりのレベル感で、どうでしょうか。

○桑原編集長 それで進めて下さい。

○靄原室長 はい。ではこれで進めさせてもらいます。

(3) 資料編の構成について

○靄原室長 資料7「他県史資料編の構成例」ですけれども、これは3月のワーキングの時に、「資料編の解説というのをどんな感じで置くのか」という話があちこちで出ていましたので、その時は、実物の他県史を持って行って、見ていただいたんですけども、なかなか実物の状態ではわからないので、5つの県史について表にしてみました。これを参考に、北海道の場合には解説をどんな形で置こうかとか、また解説の分量がこれくらいだったら、資料がこれくらい載せられてと、分担する頁数の根拠にもなると思いますので、資料として付けました。

それで、一番オーソドックスなのが「山口県史」と思いまして最初に載せたのですが、これは章ごとに解説を置いています。全体で合計1095頁。口絵と序、凡例と目次、はじめにというのが頭のほうにあって、例えば「占領の時代」の章では、解説を冒頭に32頁。続いて資料を222頁に116点収録しています。解説の32頁で何を言っているかということ、資料の背景、資料の重要性、わざわざここであげている意味、こういうことがわかる、ということですね。後ろの方に「山口県史」の解説部分をコピーしてつけています。1巻全体としては、表の下の方にありますが、資料の採録数448点。それを924頁かけて載せていて、解説は合計113頁です。全体1095頁のうち113頁を解説に費やしているので、解説の割合は10.3%です。

次の「青森県史」は、分野別ではなく時代別に区切っていて、これは「復興と改革の時代」という1巻です。こちらも「山口県史」と同じように各章ごとに解説・資料、解説・資料ということをやっていますが、「山口県史」と違うのは「総説」というものを別に8頁設けていて、全体についての編集方針、この資料編のコンセプト・内容等を述べている。この「青森県史」だけは大きいA4判で、その分、頁数もそんなに多くはなく、848頁です。ただ、資料点数はかなり多くて651点、それを697頁に載せています。大判にした理由を聞いたところ、資料をたくさん載せられるとのことでした。解説のページは77頁で全体の9.1%を使っています。

その次が「埼玉県史」で昭和62年の刊行ですけれども、資料編に力を入れた一番最初の県史です。最初に解説をまとめて載せて、その後資料を全部載せると、はっきり分けている。資料の点数は399点で、解説は70頁で全体の6.4%です。

次に「千葉県の歴史」ですね。これは、導入部に写真を多く用いた、概説よりも更に詳しい概説を「第一部 本書を理解するために」として73頁を使って載せています。次に資料をまとめて載せ、巻末に資料解説を38頁使って載せています。解説部分としては、「本書を理解するために」と合わせると111頁で全体の9.6%です。

最後に「三重県史」ですけれども、これはかなり特徴的で「総合解説」を74頁使って、そこで資料の背景などを説明し、更に各資料それぞれに150字見当で解説をつけているものです。

だいたい今のところ、このパターンで編さんされています。この部会場でこれ、と決めていただいてもいいですし、あるいは各部会で下ろしてもいいかと思います。各部会でそれぞれ好きなパターンでという訳にはいかなくて、統一しないとイケないものですから、最終的にはこの企画編集部会のなかで決めるということになるのですけども。

- 横井委員 どれくらい解説を書くのが良いのですかね。また通史編があるわけですよ。私はこういう資料編を先につくってからというやり方はしたことがなくて、それだけ先にやるのは難しいという気持があるのですよね。通史編を書くことを前提として資料を見て組み立てて、そこからこの資料を抜き出して資料編をつくるというやり方のほうがやりやすいですけど、通史を後にして資料編だけ先につくるというのは難しい、そんな声もちょっとあがっていたのですよね。
- 奥田委員 私も何人かにお話していますが、逆にもう解説編で粗々の通史を書くつもりで、通史の要約のようなつもりで書いて、最後通史を書くときにはそれをある意味膨らませるような方向でやるしかないのではないかな。
- 坂下委員 そんな雰囲気にもなっていますよね。以前の資料編は、何とか資料を集めてきて、とりあえずばんばん載せておいて、後で考えようという感じでやっていたんでしょけど、今はもうそんな資料編をつくっただけではどうにもならない。使えるような資料編にしなければならないとなれば、もう通史が半分くらい入っているということになる。
- 奥田委員 この解説部分のボリュームはある程度大きくなりますか。
- 横井委員 最初に大きくしておいた方がいいですかね。でも、通史と重複がひどくなりませんか。それはそれでいいのかもしれないですけど。うちの部会は結構細分化していますので、そうすると最初から通史を書くようにやっちゃったほうが早いのではないかっていうふうに言う人もいますね。
- 桑原編集長 1点毎に解説をつけるっていうのは負担でしょう。
- 横井委員 このやり方だと結構大変です。通史を書いている中で、実はこの資料は大切だったと後からわかってきても困るんですけどね。
- 奥田委員 わかったときはもう仕方ない。
- 横井委員 完璧っていうのはできないのかもしれない。
- 小内委員 どういう風に進められていくのか。例えば2023年に完成するとしたら1次メ切りを示して、その間に勉強会入れるものかなと。進め方のイメージが湧かないと、みんなずっとだらだら行くという危険性もあるので。
- 坂下委員 でも、基本は割り算で行くしかないと思う。1冊のうち、社会のほうは結構難しいと思いますけど、産業編は割る。ウェイト付けして何頁でと貼り付ける訳です。その中を全体で議論しながら、時期区分でいくのか、どういくのかをまず決める。そしてこの時期がこれくらいの数の資料、ということになる。その倍くらいの数を皆揃えてもらって、中から半分くらい選ぶという、そういう風にやっていくしかないと思います。それとももう少し多めに揃えておいて、それを残しておいて使えるようにしておくとか。とにかく我々がやらなければならないのは皆に働いてもらうという仕組み作りするというのが大きいから。分担関係をどう作るかとか。
- 奥田委員 分担関係の作り方とか、締め切りの設定とかはある程度部会でいいですよ

ね。出来たものの統一感さえあれば。

- 小内委員 部会で手順を独自にそれぞれ考えていくということですね。
- 奥田委員 ただ、どうでしょうか。イメージとしてはこの部会で最終的に決めるということじゃないですか。「山口県史」の扱い方が実は私のイメージに一番近かったですけども。これは資料1点ごとに順番に解説を書くという形ではなく、ある意味概説をざっと書きながらその中で資料を入れていく。だから必ずしも順番じゃないですよ。資料18、21、19というようにとんでいますよね。文章の中で資料を引用するという形で書いているので、場合によっては、資料には載せているけれど、文章では触れないということもあり得ないことではない。1点ごとに資料解説を書くよりも全体の流れの中で資料の位置づけを示していくというこの山口の例が、イメージとしては書きやすいのかなという気がしますけど。
- 坂下委員 これも結構大変ですよ。通史だと注か何かくらいでしょうけど、他にもこんなのがあったか、どんな資料があるのかとか、下関事件だとこんな論文がある、みたいなことも書いている。
- 奥田委員 でもこれは別に書く必要はないわけですよ。その前の段階でこういう事件がありましたと、その事件に関わってというだけでも。
- 坂下委員 「引揚の記憶」なんかもある、ここのタイトルに関わる資料のこういうのもあるけど、代表的にはこれを見てくださいという書き方をしている。いいとは思わんですけど。
- 奥田委員 文章の中でちりばめる、そういう意味です。もっとうような資料もありますよという書き方があってもいいですし、文章の中に資料をいくつもちりばめる、そういうやり方が一番書きやすいという気がします。
- 桑原編集長 「山口県史」のやり方の方が解説を書きやすいってことですよ。
- 奥田委員 ええ、そうですね。
- 桑原編集長 載せる資料を平等に扱う必要はないわけですよ。
- 奥田委員 そういう意味です。
- 桑原編集長 機械的に平等に扱うっていうのは大変だよ。
- 奥田委員 私もそう思いますね。
- 坂下委員 それぞれの部会で、だいたいこれくらいなので資料は何点くらいになりますという標準タイプをまず作ってもらうのがいい。ページがこれだけなので、例えば解説10%とした場合にスペースがこれだけ、1点にどれだけにすると、資料の数が何点で、いくつに分かれると。それは部会でやるとは思いますけれども、1冊分について割り当てる。
- 桑原編集長 大まかな目次を出さないと、事務局も算出のしようがないのではないのかな。
- 坂下委員 そうですけど、要するにどれだけ入るかっていう容れ物だけ、大体何字×何行というのをを出してもらえれば。
- 齋原室長 A5でいいですか。
- 奥田委員 A4のところがありましたよね。
- 齋原室長 「青森県史」は資料編だけA4です。
- 奥田委員 横書きはありませんか。A4も全部縦書きですか。

- 靄原室長 全部縦書きです。
- 奥田委員 A4でも。じゃあ段組はどうですか。
- 靄原室長 二段組みです。
- 桑原編集長 A4は大きすぎですよ。
- 坂下委員 A4というのは基本的には横書きのもの。
- 靄原室長 A5で大体1100頁くらいで、そのうち口絵とか目次とかそういったものはこれくらいというパターンを出すよ。
- 坂下委員 だいたい1巻の平均的な大きさを想定していただいて、そうするとこちらはその元にして人数で割って、だいたい分担これくらいという心づもりが出来ると思う。
- 靄原室長 一人当たり資料をいくつ載せられるかという。
- 坂下委員 そこが見当たっていないからどうやって始めようかなって感じだと思うので。その中を割るのはそれぞれでやったらいいと思いますけど。
- 靄原室長 では山口タイプでやって、解説に10%使うとしてという感じでいいですか。
- 桑原編集長 ではそれでやってみてください。
- 坂下委員 なるべく早く我々のところで考えてみて、中で検討したものを企画編集部に持ってきて、みなさんと擦り合わせて、だいたいこれでいいよということになったら作業を始めるというかたちで。
- 桑原編集長 山崎先生はいかがですか。
- 山崎委員 「山口県史」を梃子にしてやるという先生方のご議論に私も賛成です。やっぱり見ていると、資料の取扱いというのが桑原先生もおっしゃったように弾力的に濃淡をつけながら記述が出来そうなので、これでよろしいのではないかと。まだ作業始めておりませんがそのように思います。
- 横井委員 資料編の中で、縦書き・横書きが混ざっているところがありますか。
- 靄原室長 全部縦書きですね。
- 横井委員 ということは原本が横書きでもそれを全部縦書きに書き直しているということですか。
- 靄原室長 そうだと思います。
- 坂下委員 英語とかないですよ。
- 靄原室長 英語を載せている資料編もありますが英文じゃなくて、翻訳しています。
- 坂下委員 あとは、カナはそのままにするのか、とか。
- 靄原室長 そのままです。カタカナのものはカタカナのまま。
- 坂下委員 歴史やっている人は別にいいのですが、読む人からみたらえっ、と聞かないか。
- 桑原編集長 でもそれは原典に忠実にやったほうがいいと思う。
- 坂下委員 そうですかね、やっぱり。
- 奥井委員 「山口県史」の資料の「し」が歴史の「史」になっているのですが。
- 靄原室長 「山口県史」だけがそうです。
- 奥田委員 これはどちらかに統一された方が良くないですか。歴史の「史」の史料か、もう一つの方は資するの「資」の資料か。

- 坂下委員 でももう決まっていますよね。
- 靄原室長 編さん大綱の中で「資」料で決まっています。
- 坂下委員 でもタイトルはまだ決まってないですね。
- 靄原室長 タイトルと、あと通史編を1巻にするか2巻にするかということも、作業的に早く決めた方がいいかなと思います。
- 坂下委員 早く決めた方がいいですね。2巻にした方がいいと思いますけど。やっぱりがっちり書いてもらうのだからがっちり資料も集めなさいという方がいい。資料編を3巻も作って通史編1巻か、というのもある。
- 桑原編集長 戦後70年を2巻で仕上げるっていうことですか。
- 坂下委員 通史の方を1か2巻、全部で現代史は5巻ものにするという。
- 奥田委員 2巻にする場合、3部会との関わりはどんな風に考えているんですか。
- 坂下委員 前半を2つ、後半を2つに分けて、全部で4つに割って、そこでそうやるなり、2つに割るなり、場合によっては全部それぞれで3つに分かれちゃう場合もある。やり方はいろいろある。
- 靄原室長 他の県史を見ていくと時代時代で割って行って、また分野で再度割っているようです。
- 桑原編集長 ではその辺はまたおいおい議論していくことにしましょう。
- 坂下委員 体裁とかは1年後に確定でもいいの。
- 靄原室長 体裁がある程度、頭の中にないと分量の関係とかで進めづらいところもあるかなと。
- 横井委員 この解説は50字×17行ですけども、同じ資料編でもこういう感じですか。資料編の文字の大きさとか字数とか。
- 靄原室長 資料編は大体、二段組みですね。
- 横井委員 字数はこれよりもっと増える資料とかは。これよりもっと細くなる。
- 靄原室長 字の大きさは同じだと思いますけれども。
- 横井委員 じゃあこれだと大体850字で1頁だと。400字詰めで2枚というか。その資料の分量のイメージがちょっとわかった方がいいかなと。
- 靄原室長 これから各部会がまたあると思いますので、オーソドックスな山口タイプで分量が分かるようなものを用意して見てもらって、ということでもいいですか。
- その他委員 はい。

5 閉 会

- 靄原室長 用意した議題はこれだけですけども、他に何かございますか。桑原先生よろしいですか。
- 桑原編集長 はい。
- 靄原室長 ではこれで第一回企画編集部会を終わります。

(了)